令和6年度 第3回瑞浪市教育委員会点検評価委員会

日 時：令和6年7月4日（木）13：00～

場 所：市役所 4階 全員協議会室

出席者

委 員 浅沼克郎、正村京司、鰐部実、伊藤孝一、北原譲介、西尾正代

事務局 事務局長、教育総務課長、総務係（2名）

説明者 生涯学習課長、スポーツ文化課長

1 委員長あいさつ

2 点検評価のまとめ

報告書（案）の構成等について、事務局より説明

第1、2回委員会で頂いた委員の意見に対する教育委員会の対応等について、各課より説明

【基本目標1】

委員	意見なし
----	------

【基本目標2】

委員	施策1の教育委員会の対応のところで、「情報の共有、周知方法等内容の改善等を」とあります。等が続くので気になりましたが、内容の改善等の等に具体的なものはありますか。
課長	特に具体的なものはありませんので、修正します。
委員	「内容の改善等」を「内容の改善」に訂正すればいいと思います。

【基本目標3】

委員	施策3の教育委員会の対応のところで、「認知度が低い課題」とありますが、主語は、スポーツ推進委員ということでもいいですか。
課長	はい。

【基本目標4】

委員	意見なし
----	------

【基本目標5】

委員	意見なし
----	------

全体

<p>委員</p>	<p>評価が「A 順調に達成している」と「B おおむね順調に達成している」でしたので、これだけでできていれば素晴らしいと思います。委員からの指摘やアドバイスを真摯に受け止めて、よりよく改善していく、施策を充実させていく方向で考えていただいているので、ありがたいと思っています。</p> <p>市民の住みやすさや生活に充実に向けてといった、市民に直結する内容が多いと思います。また、学校教育や地域の子どもに対する教育は、将来の瑞浪市のあり方に大きくかかわってくる非常に重要なことです。その時に思いついてやってできるものではなく、何年も何年もかけて取り組んで、改めて少しずつ変わってきます。毎年振り返り評価しながら改善していくという確かな取り組みがそういうことにつながっていくので、今後も同じように真摯に受け止めて改善を図っていただけるとありがたいと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>2回の評価委員会をきちんとまとめ、課題も明らかにし、今後に向けて提案をしていただけてありがたいと思っています。</p> <p>今回△がついた項目は、コロナでできなかったものや、子どもや市民の数が減ったことによるものが多かった気がします。今後、コロナ前に戻すではなく、評価項目を見直したり、目標数値を下げたりしながらやっていっていただくことが大事であって、見直すことによって、職員の働き方改革にもつながるような中身になっていくといいと思います。</p> <p>重点項目が、施策によって多いものがありますが、重点項目は1つ2つでいいと思います。特に施策5は全部大事なことです。今年度になって、給食の時間が遅れたり、出るはずのスープがでなかったりというようなことがあったと聞いていますので、更に安全安心で確実な供給を重点にしてもらえるといいと思いました。</p> <p>今後もひきこもりや不登校傾向の子などが増えると予想されますし、全国的な課題にもなっています。将来たくましく生きていくには、小中学校、幼稚園の居場所づくりが大事だと思いますので、校内教育支援センターやこぶし教室の校外支援センターの充実を切に思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>評価委員会というものがあるということを知りませんでした。参加できてよかったと思いました。</p> <p>私も、子どもがいますので、不登校とかそういった子どものこともよく聞きますので、そういうところの充実を引き続きしていただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>委員2年目になりますが、いじめについては、目標100%であって、100%達成であってほしいと言いつけてきました。いじめがなくなることは絶対はないと思いますので、瑞浪市では、いじめをいじめと認め、早く摘み取ってほし</p>

	<p>いと思っています。</p> <p>目標根拠をしっかりとしないと評価しづらいと思います。令和5年度は、決して復活はしていませんが、コロナ明け元年だと思っています。その中で、各課が目標設定をされてみえますが、その中で、努力は努力として認めてあげたい、「達成できた、おおむね達成できた」は、大学の評価で言えば「優か良」、通知表では「5か4」だと思っています。その中で、達成できないとするならば、目標設定を落とせばいいという感覚だけはやめていただきたい。あくまでも目標は高く掲げて、これで達成できなかった時に、委員会がそこをどう見るかということが大事だと思っています。</p>
委員	<p>目標設定を下げることについて、例えば25ページ見ていただくと、公民館長会と担当者開催回数、目標8回のところ達成状況4回とありますが、本当に8回必要かということや、もう少し効率的にして、施策の目標が達成できるなら、目標数値を下げてもいいのではないかということでは言わせてもらいました。</p>
委員	<p>適正な目標設定がA評価をとるために数値を下げるべきでないと思います。これについては、私も8回の必要はないと思います。</p>
	<p>教育委員会の適切な指導と各現場での各職員の努力のもとよくなってきていると思います。特にこの点検評価委員会での意見を真摯に受け止めて、次への指導に活かしていくという基本姿勢が、これまでの5年間の成果として表れていると思います。</p> <p>第2回の教育長さんのごあいさつの中で、児童生徒に対するアンケート調査の結果で「自分にはよいところがある。」等、肯定的な回答が90%以上だったと聞き、それだけあればすごいと思ったのですが、続けて言われたのが、残りの数%に目を向けて行きたいと言われました。誰一人落ちこぼれをつくらないと。残りの数%が0になるまで、力を尽くしていかなければいけないと思いました。心の教育（いじめ）に関してです。コミュニティ・スクールのスローガンに、「ふるさと大好き」というのがあります。自分自身が小さいときは、そんなスローガンを掲げて教育を受けた覚えがないのですが、自分の生まれ育ったふるさととは、今でも懐かしいし、戻ってみたいと思います。それが自然なのですが、いじめはもちろんのこと、そこまで顕在化しないような嫌な思いが、幼い子どもたちの心の中に傷として残っていくと、「ふるさと大好き」という心を育むことは困難です。学校・家庭・地域が一丸となって、子どもたちに思いやりの心、ふるさと大好きの心を育てていけたらと思います。</p> <p>4項目、意見なしとありました。4項目とも評価はAでした。Aだからかとも思いましたが、自分自身で考えたら、そのことに関して知見が乏しく、意見が言えなかったと思います。ここにいるものでさえ、意見が言えるほどの知見を持っていないということは、一般市民の方は、もっと知らないと思いますので、</p>

	<p>その辺の周知に努力してほしいと思います。</p>
委員	<p>最終年度の点検評価は、良い評価で終われたと感じています。</p> <p>基本的な視点として3つあって幼小中家庭地域の連携ということ、全ての市民が主体的になるという視点、柔軟な対応をしていく視点であったと思いますが、一番の中心は、全ての市民が中心になっていくということが一番大事な視点だと思っています。そこがこの5年間の評価された内容ではないかなということを感じました。具体的には、施策の目標や主体的な主な取組内容、取組方が、5年間、数字では表せませんが、市民目線に、徐々に変わってきている。</p> <p>市民目線で考えられた仕事がされるようになってきているってことがあり、その意味で、AとBの評価はいい評価であると思っています。</p> <p>もう一つは、そうしていくために何があったかということ、この評価委員会として、令和2年に評価の仕方を変えているというところがありました。施策ごとに評価をしていくっていう意味合いもありました。例えば、9ページの施策4の豊かな心の育成というところで、令和2年度は、新しい評価委員会の視点でCがついていました。そのあと3年連続でAとなっていました。これは、評価の仕方を変えた点で、大きな成果であると思うし、仕事がより市民目線に立って考えられるようになって、そこが評価されてきたのではないかというように見て取れました。</p> <p>最終年度の評価作業終わりましたが、全ての市民が主体的になっていくところで大きな成果が出せ、それをまた6年度以降もつなげていきたいということで、私はとらえていますし、そんな意見を持っています。</p>